

全国53ヶ所に広がる

# リノベーションまちづくり SUMMIT 2019!

## 2019.5.18(土)ー19(日) NAGATACHO GRiD

ー 当日開催レポート ー



### ■開催概要

本サミットでは、改めてリノベーションまちづくりの原点に立ち返りその目的と意義を考え直し、これまでの実践の中で浮かび上がってきた「公民連携」というキーワードを切り口に、リノベーションまちづくりの今をテーマ横断的に紐解いていきました。さらには、その先に目指すべき都市経営のあり方についても、既存の考え方に捉われない新しい知見をいれて掘り下げた議論が行われました。全国各地から公民連携によるリノベーションまちづくりの当事者や関心のある方、2日間でのべ440人以上の方にご来場いただき、これからの取り組みにつながる様々な交流が生まれた場となりました。そんなサミットの各プログラムを一部ご紹介いたします。

### ■参加者の感想

・登壇された皆様の熱い講演が良かったです。粘り強く実現したいことを続けることに希望を感じました。(30代・会社員不動産)・公民連携やリノベーションまちづくりを進めるにあたり、たくさんの学びがあったことに加えて先進的な自治体の首長さんの本音の話も聞くことができ大変刺激を受けた。(40代・公務員行政)・自分のフィールドではない話であっても、今後のまちづくりを考えたときに、視野が広がることばかりで、最後まで気の抜けない良いプログラムでした。(30代・自営業まちづくり)

### 第一部

リノベーションスクールのこれまでとこれから

<登壇者>

- ・清水 義次氏 (株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役)
- ・馬場 正尊氏 (Open-A Ltd. 代表取締役)

10年経った今でもまちに変化をおこすためのエンジンとして機能し続けているリノベーションスクール。スクールという形式が北九州で始まるまでの経緯を、登壇者である清水氏の経験になぞらえながら振り返る。また、各地でオリジナルに発展してきたその動きを経て、すでに現在は、「まちのリノベーション」という次なる段階に入り、それに伴い、各地の家守会社も次のステップに行く必要があるという問いがなされる。また、これから、まちづくりの発想や方法論自体もリノベーションしていく必要があるという投げかけもあり、2日間かけて議論される内容の大きな流れを把握するためのセッションとなっている。



### 第二部 公民連携を考えるテーマセッション①

「図書館 × 公園」

<登壇者>

- ・岡崎 正信氏 (株式会社オガール代表取締役)
- ・八重嶋 靖氏 (紫波町 教育部長)
- ・町田 誠氏  
(公益財団法人東京都公園協会 特命担当部長)



お互いに公共施設であるはずの公園と図書館の連携は難しい。「他にあるものだからこそ作る」という役所の体制を、「他と違うものを作らないと商売にならない」という民間の考えに転換させ、実現させたオガールプロジェクト。

岩手県紫波町のオガールプロジェクトを題材に公園管理者・教育委員会・民間企業が連携し、公園・図書館・テナントが同じ土地でどのような相乗効果を生み出したのか。これまでの軌跡を辿り、今まで語られなかった当事者たちの裏話も交えながら紐解いていく。





## 第二部 公民連携を考えるテーマセッション②

### 「郊外 × 団地」

<登壇者>

- ・大島 芳彦氏（株式会社ブルスタジオ専務取締役）
- ・入江 智子氏  
（大東公民連携まちづくり事業株式会社代表取締役）
- ・島原 万丈氏（株式会社 LIFULL HOME' S 総研 所長）



20世紀初頭、ロンドンから田園都市構想が輸入され生まれた郊外・団地。かつてトレンドドラマの舞台となった郊外や団地が、産業構造の変化、高齢化によって、大きく変わってきている。広島市の郊外として位置づけられる呉市、神奈川県座間市ホシノタニ団地、大東市北条のまちづくりプロジェクト等の事例を元に、現代の郊外・団地にどのようなまちづくりが必要とされ、地域住民に受け入れられていくのか。国民幸福度1位のデンマークとの生活比較調査を踏まえて、コミュニケーションをキーワードに現代の暮らしと仕事のあり方についても議論されている。



## 第二部 公民連携を考えるテーマセッション③

### 「道路 × 駐車場」

<登壇者>

- ・西村 浩氏（株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役）
- ・山田 高広氏（株式会社 三河家守舎 代表取締役）
- ・山田 大輔氏（神戸市 都市局 計画部 都市計画課課長）



車社会へ変化により、街の中心地の空洞化が起これ、駐車場が増えた。同時に歩行者が安心して街を歩けなくなった。駐車場の保有率は多くのまちで中心部に2・3割を占め、今後の活用次第では、歩行者も安心し、土地・不動産オーナーも収益の上がる形を作ることができる価値のある空間なり得る。キーワードとして上がったのが、「commons協定」そして「社会実験」。民間がいかにか、暮らしやすい街をつくるのか。これをサポートする形で行政が役割をどうもつことが出来るのか。そんなヒントが岡崎市での実践を含め、民間・行政それぞれの目線で自分たちの街で出来ることを考えていける内容である。



## 第二部 公民連携を考えるテーマセッション④

### 「公園 × 道路（ストリート）」

<登壇者>

- ・青木 純氏（株式会社まめくらし代表取締役）
- ・廣瀬 真一氏（各務原市都市建設部土地活用推進室）
- ・長縄 尚史氏  
（一般社団法人かかみがはら暮らし委員会）
- ・町田 誠氏  
（公益財団法人東京都公園協会 特命担当部長）



多くの自治体で公園の活用方法や維持管理が課題となっている。その中で、公園を広場化していかにか価値のある場にしていくのが今後の公園には重要となってくる。行政としての公園・民間としての公園の双方の捉え方を各務原市の公園と南池袋公園の活用事例から、深めていく。その中で上がったのは「シームレス」。行政的な区域ではなく、一体としての場が魅力的なものにいかにかすることができるのか。意識的なものでなく、能動的に活用していくような仕掛けがいずれの事例の中に散りばめられている。社会実験が多く行われ初めているが、まずは民間出来る事から小さく初めていく。成果を出している2つの事例もコツコツ無しには語れない。素敵な風景を作る影で何をしているのかを知ることで出来る内容である。



## 第三部

### 次の時代の都市経営を探る

<登壇者>

- ・清水 義次氏（株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役）
- ・馬場 正尊氏（Open-A Ltd. 代表取締役）
- ・木下 斉氏（一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス代表理事）
- ・東 修平氏（四條畷市長）
- ・齊藤 啓輔氏（余市町長）

日本は人口が減っていく中で、どのようにまちを指揮していけば良いのか。実際に余市町齋藤町長と、四條畷市東市長から話を伺っていく。これまでは工業化を進めていく中で、収入を賄ってくる事が多かったが、税金が見込めない中で、どのように今後のまちの運営を考えていくのか。木下さんから「経済」「財政」「統治」「教育」のキーワードが提起され、それぞれのあり方を深めていく。今後民間から投資を促す事の重要性からエビデンス・当事者意識の醸成が挙がってきた。選ばれる行政の時代への変遷を感じる時間であった。「このまちだからこそ」を行政職員・民間が共同し作っていくことが今後より重要となるからこそ、首長でなくとも、自分は何ができるのか考えさせられる内容である。

